



「第40回障害者福祉大会

・障害者フェスティバル2016」を開催

～障害者週間（12月3日から9日）の啓発事業～

と き	12月3日（土）障害者福祉大会 : 午前10時～10時50分 障害者フェスティバル : 午前10時～午後3時
と ころ	光が丘区民センター（光が丘2-9-6）、光が丘公園ふれあいの径

3日、光が丘区民センターで第40回障害者福祉大会が開催され、地域で活躍している障害のある方や障害者福祉の向上に寄与した10名、1団体が表彰された。今年の表彰者には、リオデジャネイロ・パラリンピックに出場した2名が含まれている。前川耀男練馬区長から、一人ひとりに感謝状や賞状が手渡された。表彰された男性の一人は、「家族や支援者に支えられてここまで来た、2020年パラリンピック東京大会では、金メダルを取れるように精進していく。」とコメントした。

また、光が丘区民センター、都立光が丘公園ふれあいの径では障害者フェスティバル2016が開催された。合唱やダンスなど日ごろの練習の成果が披露されたほか、さをり織などの小物類やパン、菓子などの食品等の自主製品販売も行われ、親子連れなど多くの来場者でにぎわった。笑顔でやり取りをしているお客様は「今年初めて来たが、にぎわいや活気、ふれあいなどがあってとてもよいイベントだと感じた。これからも続けて欲しい。」と話した。



表彰式の様子



模擬店での様子

【第40回障害者福祉大会】

障害者福祉大会は障害者週間に毎年開催されている。練馬区在住在勤で地域において活躍している障害のある方や、障害者福祉の向上に寄与した方を表彰するのが目的。区や区議会、各障害福祉団体の代表者ら約150名の出席者が祝福した。

【2016障害者フェスティバル】

障害のある方に対する理解や認識を深めることを目的に、1982年(昭和57年)から毎年障害者週間に合わせて開催され、今年で35回目。今年のテーマは、『みんなのえがおでつながる未来』。障害者団体や事業所の計53団体が参加した。

この日は、午前10時になると、会場はフェスティバルを楽しみにしてきた家族連れや地域住民でにぎわった。光が丘区民センター内では、合唱や歌に合わせた踊りなどの舞台発表、障害者団体等の活動の様子のパネル展示や絵画などの力作が並び、訪れた方は足をとめ、作品に見入っていた。

「ふれあいの径」では、焼きそばやけんちん汁などの食品類、障害者が施設で作成した小物や菓子等を販売する多くの出店があった。味わいのある手作りの自主製品は好評で、それを楽しみに来場する方も多い。

【問い合わせ】練馬区 障害者施策推進課 管理係 電話03-5984-4598



受賞者スピーチ



模擬店の様子